

愛知県感染症情報

AICHI Infectious Diseases Weekly Report

2014年45週 (11月1週 11/3~11/9)

2014年10月報

愛知県感染症情報センター (愛知県衛生研究所内)

<http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/kansen.html>

E-mail: eiseiken@pref.aichi.lg.jp

連絡先: 052-910-5619 (企画情報部)

今週の内容

トピックス

RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、インフルエンザ、梅毒、世界エイズデー、エボラ出血熱

定点医療機関コメント

RSウイルス感染症、溶血性レンサ球菌感染症、感染性胃腸炎、インフルエンザ、咽頭結膜熱等

全数把握感染症発生状況 ()内は件数。

結核(30)、腸管出血性大腸菌感染症(2)、アメーバ赤痢(2)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(1)、後天性免疫不全症候群(4)、侵襲性肺炎球菌感染症(1)、風しん(1)

2014年10月報

定点把握感染症報告数 (保健所別、年齢別)

「グラフ総覧」は <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/graph.pdf>

トピックス

RSウイルス感染症(図1)

45週の小児科定点当たり報告数は0.91、44週176人、45週165人(0歳65人、1歳55人、2歳24人、3歳13人、4歳6人、5歳2人)で、2歳未満の報告数が全体の72.7%を占めています。

咽頭結膜熱(図2)

45週の定点当たり報告数は0.34、44週50人、45週61人(1.22倍)です。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

45週の定点当たり報告数は1.57、44週311人、45週286人(0.92倍)です。

インフルエンザ

45週の定点当たり報告数は0.13、44週11人、45週25人です。

【参考ページ】名古屋市：集団かぜによる学級閉鎖等の状況(11月4日発表)

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/15-7-3-3-11-0-0-0-0-0.html>

梅毒(図3) (5ページ参照)

2014年45週までの累積報告数は101件です。2013年45週までの累積報告数は46件、2013年総計は54件でした。

12月1日は「世界エイズデー」です。

愛知県では、「世界エイズデー」を含む12月1日(月)から12月7日(日)までの1週間を「愛知県エイズ予防強化週間」として、「エイズキャンペーン2014」及び「夜間・休日の無料・匿名エイズ即日検査会」を実施します。

【参考ページ】平成26年度愛知県エイズ予防強化週間について <http://www.pref.aichi.jp/0000019707.html>

エボラ出血熱

【参考ページ】エボラ出血熱について (厚生労働省)

<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansensho/u19/ebola.html>

エボラ出血熱の国内発生を想定した医療機関における基本的な対応について (厚生労働省)

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansensho/u19/dl/20141024_01.pdf

西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の流行に関するリスクアセスメント (国立感染症研究所)

<http://www.nih.go.jp/niid/ja/ebola/1094-idsc/5127-ebola-ra141031.html>

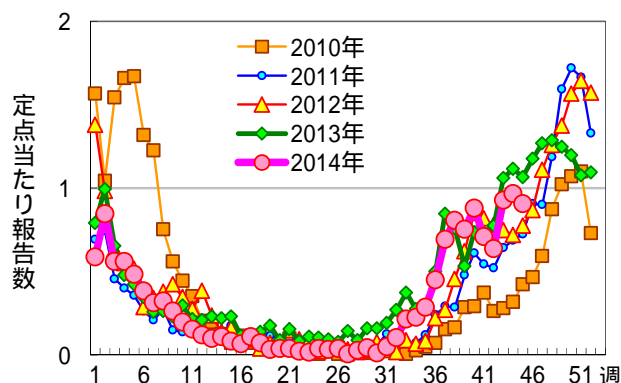


図1 RSウイルス感染症

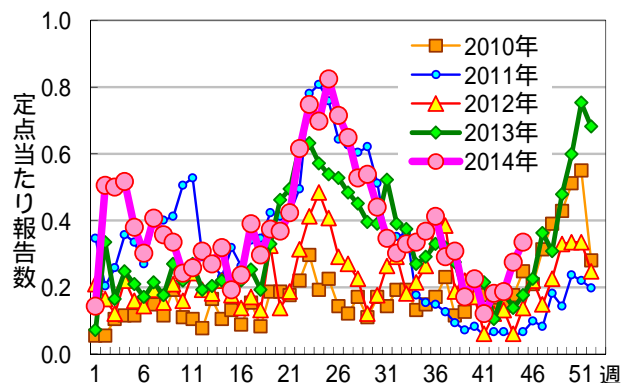


図2 咽頭結膜熱

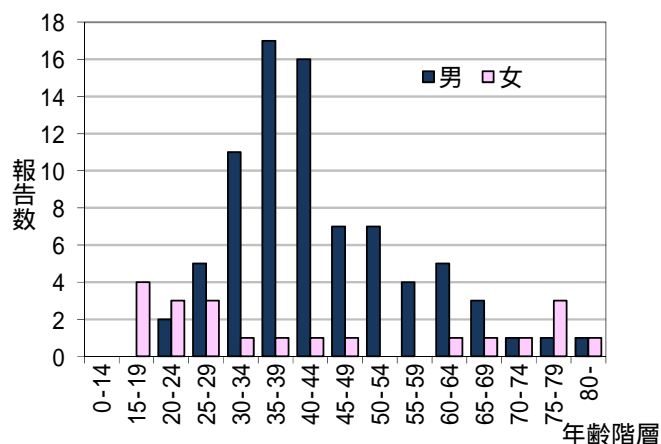


図3 性別、年齢階層別梅毒報告数 (愛知県、2014年1~45週診断分、11月12日現在)

定点医療機関コメント(名古屋市除く)

尾張西部地区

先週分から 11 歳男 カンピロバクター陽性
 【一宮市 あさのこどもクリニック】
 溶連菌感染あり
 【一宮市 後藤小児科医院】
 RS ウイルス 8 名、A 群溶連菌 3 名と依然
 目立ちます。
 細菌性胃腸炎 やや増加しています。
 【犬山市 武内医院】
 RS ウイルス感染症 やや目立ちます。
 アデノウイルス感染症 2 名
 溶連菌感染症 減少しています。
 【江南市 みやぐちこどもクリニック】

水痘、手足口病、多発しています。

RS ウイルス 散発

【岩倉市 医療法人なかよしこどもクリニック】

19 歳男 カンピロバクター

手足口病、水痘 散発

【清須市 丹羽医院】

16 歳女 A 型インフルエンザ

【北名古屋市 田中クリニック】

尾張東部地区

溶連菌感染症 今週もみられました。
 その他 突発疹等
 【尾張旭市 医療法人誠和会佐伯小児科医院】
 RSV は特に乳児で多いようです。
 【春日井市 春日井市民病院】
 RS ウイルス、溶連菌、感染性胃腸炎 続発
 【春日井市 朝宮こどもクリニック】
 溶連菌感染、手足口病などが目立ちます。
 【小牧市 志水こどもクリニック】
 インフルエンザ A 3 名
 【半田市 医療法人林医院】

RS ウイルス感染症 2 名(2 歳、4 歳)

アデノウイルス感染症 1 名(6 歳)

溶連菌感染症が目立ちました。

【東海市 もしもしこどもクリニック】

インフルエンザ A 型 女 1 歳

9 歳男 カンピロバクター(+)

3 歳女 サルモネラ O7(+)

RS ウイルス感染症、胃腸炎が増えています。

【大府市 まえはらこどもクリニック】

西三河地区

カンピロバクター腸炎 13 歳男
E. coli(O25) 1 歳男
 StrepA(+) 3 名
 RSV(+) 2 歳男
 アデノ(+) 14 歳女
 【豊田市 星ヶ丘たなかこどもクリニック】
 マイコプラズマ 15 歳女
 【豊田市 わかぞの東洋クリニック】

RS ウイルス(2 歳)は高熱・咳ひどかったです。

水痘 散発

【岡崎市 花田こどもクリニック】

5 歳女 病原性大腸菌 O1(+)VT(-)

【岡崎市 にいのみ小児科】

2 歳女 マイコプラズマ肺炎

【岡崎市 竜美ヶ丘小児科】

東三河地区

インフルエンザ A 型 1 名(37 歳男)、B 型
 1 名(66 歳女)、計 2 名
 【豊橋市 医療法人羽柴クリニック】

アデノウイルス(便から検出) 8 か月 男
 11 月 5 日

【田原市 愛知県厚生農業協同組合連合会渥美病院】

全数把握感染症発生状況（愛知県全体・保健所受理週別）2014年11月12日現在

一～三類感染症

<関連リンク> 届出基準 <http://www.pref.aichi.jp/eiseiken/2f/todokedeki jun140919.pdf>

結核（二類感染症）

報告保健所	2014年45週報告数			2014年総計(1～45週)		
	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲	総数	喀痰塗抹検査 陽性者数再掲	無症状病原体 保有者再掲
名古屋市(16保健所合計)	11	2	3	643	174	171
豊田市				67	20	20
豊橋市	1			63	18	21
岡崎市	1	1		54	22	12
一宮	2	1		136	36	43
瀬戸	5	2		130	28	46
半田				32	14	9
春日井				69	15	13
豊川				49	17	11
津島	1			65	14	26
西尾	1			37	15	6
江南	1			53	19	10
新城				3	1	1
知多				74	19	19
清須				42	6	17
衣浦東部	7	1	1	88	23	23
合計	30	7	4	1,605	441	448

腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	発病月日	初診月日	診定月日	備考
1	岡崎市	57歳	女	- / -	10 / 29	10 / 29	O血清型不明、VT1(+) 無症状病原体保有者
2	清須	18歳	男	10 / 23	10 / 27	10 / 31	O26、VT型不明

四類・五類感染症（全数把握）（推定感染経路、推定感染地域は確定も含む）

アメーバ赤痢（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	41歳	女	腸管外アメーバ症	経口、性的接触	国内、フィリピン
2	名古屋市	43歳	男	腸管アメーバ症	性的接触	国内

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	推定感染経路	推定感染地域	90日以内の海外渡航歴
1	名古屋市	89歳	男	医療器具関連感染	国内	無

後天性免疫不全症候群（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	病型	推定感染経路	推定感染地域
1	名古屋市	58歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
2	名古屋市	45歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
3	名古屋市	48歳	男	無症候性キャリア	性的接触	国内
4	名古屋市	36歳	男	AIDS	性的接触	国内

侵襲性肺炎球菌感染症（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	衣浦東部	68歳	女	無	国内

風しん（五類感染症）

番号	報告保健所	年齢	性別	予防接種歴	推定感染地域
1	豊田市	4歳	男	有	国内

10月の一～五類感染症(全数把握対象)発生状況〔()は無症状病原体保有者再掲。〕

2013～2014年に報告のあった 疾病名及び病型 ()内は全数把握対象疾病数		2014年10月			2014年	2013年
		愛知県 (名古屋市除く)	名古屋市	愛知県全体	累計 <愛知県全体>	総計 <愛知県全体>
一類 (7)	発生報告なし	0	0	0	0	0
二類 (5)	結核	92 (25)	63 (18)	155 (43)	1,570 (442)	1,915 (468)
三類 (5)	コレラ	0 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)
	細菌性赤痢	1 (0)	5 (0)	6 (0)	8 (0)	16 (2)
	腸管出血性大腸菌感染症	8 (2)	3 (1)	11 (3)	121 (28)	211 (58)
	腸チフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (0)
	パラチフス	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	3 (0)
四類 (43)	E型肝炎	0	0	0	1	2
	A型肝炎	1	0	1	8	4
	チクングニア熱	0	0	0	0	1
	つつが虫病	0	0	0	0	4
	デング熱	1	1	2	9	14
	マラリア	0	0	0	1	8
	レジオネラ症	4	2	6	47	64
五類 (18)	アメーバ赤痢	2	5	7	60	62
	ウイルス性肝炎	1	0	1	11	16
	内訳 B型	1	0	1	10	7
	内訳 その他	0	0	0	1	9
	カルバペネム耐性 腸内細菌科細菌感染症*	4	4	8	8	-
	急性脳炎	0	0	0	17	25
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	2	10	10
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	0	12	8
	後天性免疫不全症候群	0	10	10	89	99
	内訳 無症候性キャリア	0	7	7	60	64
	内訳 AIDS	0	3	3	28	33
	内訳 その他	0	0	0	1	2
	ジアルジア症	1	0	1	2	2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症**	0	0	0	12	13
	侵襲性髄膜炎菌感染症**	0	0	0	2	0
	侵襲性肺炎球菌感染症**	4	2	6	90	76
	水痘(入院例に限る。)*	3	1	4	5	-
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	2
	梅毒	6	7	13	101	54
	内訳 無症候	2	4	6	48	25
	内訳 早期顕症	4	3	7	48	24
	内訳 晩期顕症	0	0	0	5	5
	破傷風	1	0	1	3	5
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	1	6
	風しん	1	0	1	18	375
	麻しん	0	0	0	46	25
	総計	130	106	236	2,256	3,022

* 2014年9月19日から、「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症(全数把握対象疾患)に追加されました。また、五類感染症の「水痘(入院例に限る。)」及び「薬剤耐性アシネトバクター感染症」が全数把握対象疾患となりました。なお、五類感染症(定点)の「水痘」は、引続き小児科定点把握対象疾患です。

** 2013年4月1日から、五類感染症(全数把握対象疾患)に「侵襲性インフルエンザ菌感染症」及び「侵襲性肺炎球菌感染症」が追加されました。なお、この2疾患()を除く細菌性髄膜炎については引続き基幹定点把握対象疾患です。同じく五類感染症の「髄膜炎菌性髄膜炎」が「侵襲性髄膜炎菌感染症」に変更されました。

五類感染症(月報定点把握対象)発生状況

	疾病名	2014年10月			2014年 累計	2013年 総計
		愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
性 感 染 症 定 点	性器クラミジア感染症	80	61	141	1,352	1,742
	性器ヘルペスウイルス感染症	33	16	49	536	706
	尖圭コンジローマ	14	12	26	307	382
	淋菌感染症	17	26	43	569	708
基 幹 定 点	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	69	20	89	954	1,212
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	5	0	5	45	84
	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	4	9
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	0	0

2014年9月19日から全数把握に変更

感染症法に基づく獣医師からの届出状況

感染症の名称及び動物の種類	2014年10月			2014年 累計	2013年 総計
	愛知県 <名古屋市除く>	名古屋市	愛知県 全体	愛知県 全体	愛知県 全体
エキノコックス症の犬	0	0	0	1	0

感染症の類型及び定義(感染症法)

2014年9月19日現在

類型	定義
一類感染症 (7疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が極めて高い感染症。患者、疑似症患者及び無症状病原体保有者について入院等の措置を講ずることが必要。
二類感染症 (5疾病)	感染力、罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性が高い感染症。患者及び一部の疑似症患者について入院等の措置を講ずることが必要。鳥インフルエンザ(H5N1)が平成20年5月12日の法改正により従前の四類感染症鳥インフルエンザから除かれ、二類感染症に追加された。
三類感染症 (5疾病)	感染力及び罹患した場合の重篤性等に基づく総合的な観点からみた危険性は高くないが、特定の職業への就業によって感染症の集団発生を起こしうる感染症。患者及び無症状病原体保有者について就業制限等の措置を講ずることが必要。
四類感染症 (43疾病)	動物、飲食物等の物件を介して人に感染し、国民の健康に影響を与えるおそれがある感染症(人から人への伝染はない。媒介動物の輸入規制、消毒、物件の廃棄等の物的措置が必要。)
五類感染症* (47疾病)	国が感染症の発生動向の調査を行い、その結果等に基づいて必要な情報を国民一般や医療関係者に情報提供・公開していくことによって、発生・まん延を防止すべき感染症。
新型インフルエンザ等感染症 (2疾病)	インフルエンザのうち当該感染症に対する免疫を獲得していないことから、生命及び健康に重大な影響を与えるおそれのあるもの。新型インフルエンザ(新たに人から人に伝染する能力を獲得したウイルスによるもの)及び再興型インフルエンザ(かつて世界規模で流行したウイルスによるもの)が平成20年5月12日に指定された。
指定感染症** (2疾病)	既知の感染症(一～三類及び新型インフルエンザ等感染症を除く)のうち、一～三類感染症と同程度の危険性を有し、それらに準じた措置を実施しなければ、国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるもの。一年間に限定した指定。
新感染症	人から人に伝染すると認められる疾病であって、既に知られている感染性の疾病とその病状又は治療の結果が明らかに異なるもので、当該疾病にかかった場合の病状の程度が重篤であり、かつ、当該疾病のまん延により国民の生命及び健康に重大な影響を与えるおそれがあるものと認められるもの。

* 2014年9月19日に「カルバペナム耐性腸内細菌科細菌感染症」及び「播種性クリプトコックス症」が五類感染症に追加されました。

**2013年5月6日に指定感染症に定められた「鳥インフルエンザ(H7N9)」は、指定感染症としての指定期間が1年間延長されました。2014年7月26日に「中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)」が指定感染症に追加されました。

